

5. 香川県

月 日	時 間	活動内容
10月5日 (水)	14:30	香川県到着
	15:30 ~ 16:00	香川県庁表敬訪問 * リトアニア代表者挨拶 * 記念品交換
	16:00 ~ 16:30	オリエンテーション
	18:00 ~ 20:00	夕食交流会
10月6日 (木)	9:30	日プラ株式会社着
	9:30 ~ 11:30	工場見学
	11:30	日プラ株式会社発
	12:00 ~ 13:10	昼食
	13:50	讃州井筒屋敷着
	14:00 ~ 14:45	かめびし醤油見学
	15:00 ~ 16:30	讃州井筒屋敷見学
	18:00 ~ 19:30	夕食
20:00	ホテル着	
10月7日 (金)	10:00	高松市立亀阜小学校訪問 (交流会) * バプアニューギニア代表者挨拶 * パフォーマンス 昼食 (給食) 授業見学
	15:00	亀阜小学校発
	18:30 ~ 20:30	歓迎会・ホームステイマッチング * リトアニア代表者挨拶 * パフォーマンス
	20:30	ホームステイへ
10月8日 (土)		終日ホームステイ
10月9日 (日)	11:50	ホームステイ先より高松空港集合 昼食
	12:20 ~ 13:05	意見交換会
	13:05 ~ 13:20	お別れセレモニー * バプアニューギニア代表者挨拶
	14:00	高松空港発 JAL480便

今回は、国際青年育成交流事業のリトアニアとパプアニューギニアの受入で、去年のラトビアと同じバルト3国のリトアニアということで、バルト3国が身近に感じられました。パプアニューギニアはキャンセルがあり5名の参加で、人数はリトアニアの半分なのでバランスがどうか心配しましたが、お互いのコミュニケーションがよくとれていて、全体として落ち着いた良い雰囲気でした。

台風の影響で、直前に来県の時間帯が繰り上がりましたが、中は、天候に恵まれました。初日の知事表敬をした県庁からは、瀬戸内海の景色をくっきり見ることができました。翌10月6日は、午前中は、ニップラという水族館の亚克力パネルを作っている会社を訪問し、午後は、地元の醤油蔵を見学し、和三盆づくりを体験し、お抹茶をいただきました。

10月7日は、小学校を訪問し、午前中は体育館で全校生徒に迎えられ、交流会を開催していただきました。6年生が「八木節」の合奏をし、青年たちもそれぞれに歌や踊りを披露して、子どもたちも踊りに加わり、大いに盛り上がりました。小学生と給食をいただき、一緒に掃除をし、昼休みは校庭でドッジボールやおにごっこをして、授業に参加し、芸能人のように注目を浴びた小学校訪問でした。

そして、一番の関心事だったホームステイですが、マッチングをした直後は、お互い緊張している様子でしたが、最後の高松空港では、まるで家族の一員のように馴染んでいました。各御家庭に温かく迎えていただき、それぞれが異なる特別な体験ができたことがうかがわれました。



今回のホームステイではリトアニアの大学生のアルマンタス君が我が家に来てくれました。日本とリトアニアは昔から深い親交があると聞いていたので、そのつながりを知るため、事前に、昨年話題になった「杉原千畝」という映画を観ました。実際にアルマンタス君と会って話をしていると、70年以上経った今でも「命のビザ」が発給された領事館が記念館として残っており、たくさんの日本人観光客がリトアニアを訪れているそうです。今後も私たち日本人とリトアニアの方たちとのつながりを大切にしていきたいと改めて感じました。

アルマンタス君は好青年で礼儀正しく、積極的に私たち家族と交流を持ってくれ、本当に素晴らしい青年でした。日本が大好きで、独学で日本語の勉強しており、彼が作ったお寿司の写真も見せてもらいまし

た。ホームステイ中、私が一番感心させられたのが、「ごみの分別」でした。「燃えるごみ」「燃えないごみ」「ペットボトル」にきれいに分別をして、ホームステイが終わる頃には完璧に我が家のゴミ箱の場所を覚えてくれていました。リトアニアではごみの分別はないそうで、今回ごみの分別をマスターした彼はまるで日本人のようでした。

日本が大好きな彼にはまだまだ連れて行ってあげたい場所や食べてもらいたい日本食がたくさんありました。しかし、3日間はとても短くあっという間に終わってしまいました。いつかまた、彼が日本に来ることがあれば、美味しい日本食をご馳走してあげたいです。

普段の生活の中で外国の方と接する機会がない中、このようなプログラムに参加させていただき嬉しく思っております。ありがとうございました。

リトアニア参加青年 ジャスティナ・カロブライテ

香川県に到着した私たちを迎えてくれたのは、息をのむように美しい瀬戸内海の島々を背景にした瀬戸大橋の光景でした。正装姿でプログラムに臨んだ私たちは、知事からうどどの国へと温かく歓迎していただきました。表敬訪問ではリトアニア団とパプアニューギニア団の代表者が挨拶をしました。高松初日の夜は、居心地の良いレストランにて網焼き料理、シーフード、日本のビール（20歳以下はオレンジジュース）を堪能しました。

木曜日は1日を通じて地元の産業と文化を体験しました。まずは水槽用アクリルの世界的メーカーである日プラの工場を見学しました。リトアニア団とパプアニューギニア団のメンバーは、この世界的に有名な企業の技術革新と謙虚さに感銘を受けました。その後、かめびし醤油を訪問しました。そこで私たちが出合ったのは、日本で最もこだわりのある、伝統的な自然素材から作る醤油でした。すばらしかったのは醤油だけではなく、醤油造りを取り巻く環境でした。手入れの行き届いた日本庭園と伝統的な日本建築に、ロボット「ペッパー」やシンプルな色合いの家具などが、モダンな雰囲気を添えていました。目と鼻の先にある讃州井筒屋敷では、特別な日本の砂糖を使ったお菓子作りに挑戦しました。その後、伝統的な茶室で抹茶をいた

だき、200年以上前に作られた「茶運び人形」を見せていただきました。一日の最後に、洗練された和食レストランで夕食をとりました。着物姿の女将に迎えられ、美味しい料理を堪能しました。

金曜日の午前は、亀阜小学校訪問から始まりました。リトアニア団とパプアニューギニア団がそれぞれパフォーマンスを披露しました。子供たちは私たちに会えて大喜びし、すてきなパフォーマンスを見せてくれました。その後、皆で教室に移動して給食を食べ、ドッジボールをしたり、3かける6の教え方を思い出したりしました。子供たちとのやりとりは日本語のみでした。日本の児童がきちんとしつけられ、綺麗好きで礼儀正しいことに、皆感心しました。授業後の自由時間には、温泉でくつろぎ、ホテル屋上から高松の景色を楽しみました。夜はリトアニア団とパプアニューギニア団がホストファミリーの前で歌と踊りのパフォーマンスを披露しました。すばらしい歓送会の後、参加青年はステイ先に向かいました。

日本人家庭にゲストとして迎えられたことは、私たちにとってこの上なくすばらしい特別な体験でした。ホストファミリーとは忘れられない記憶と様々な経験を分かち合いました。ステイ先から空港に集合した私たちは、興奮しながらそれぞれの体験談や印象を語り

合いました。多くの団員が栗林公園など地元の観光名所を訪れたり、日本家庭の日常生活を楽しんだりしました。ホストファミリーとのコミュニケーションに苦労した団員もいた一方、言葉の壁をたやすく乗り越えた団員もいましたが、ホームステイが日本滞在中の忘

れられない特別な経験だったということで意見が一致していました。お別れセレモニーの後、団員はホストファミリー、地元のボランティアと名残を惜しみつつ、香川から帰京の途に着きました。

パプアニューギニア参加青年 ジェローム・セセガ

10月5日（水）の午前中、雨の中パプアニューギニア団とリトアニア団は、島根県から香川県へとバスで4時間かけて移動しました。香川は日本の小さな県ですが、「うどんの国」として日本人と外国人によく知られています。今回、香川を訪問し、人と話すたびに、うどんについて言及されましたが、実際に香川を訪問し、この活気にあふれた美しい高松市で4日間過ごしてみれば、その本当の魅力がよく分かりました。

団員たちは、香川の産業、香川の施設、香川でのホームステイ、という三つの社会的側面から香川県を観察しました。

最初の訪問先は、アクリルパネル（水族館の水槽用ガラス）の最大手メーカー日プラ株式会社でした。私たちは日本の小さな香川県における製造業の可能性を目の当たりにし、日プラがその勤勉さと高い専門性によって世界唯一のアクリルパネルのメーカーになったことを知りました。この素晴らしい会社が私たちの訪問を大変謙虚に受け入れてくださり、私たちは彼らが世界に製品を供給するべく並みならぬ努力をしていることを知りました。

次に訪問した亀阜小学校では、校門をくぐったとたん人気者扱いされました。盛大な拍手で体育館に迎え入れられ、文化パフォーマンスを披露しました。子供

たちもパプアニューギニアの華やかで活気あふれる踊りとリトアニアのゆったりとしたペアで踊る民族舞踊を見て、本当に楽しい一日を過ごしました。団員はグループに分かれて子供たちと教室で過ごし、この学校のカリキュラムの水準の高さを知りました。教育システムがきちんと整い、子供たちが自発的に主体性を持ちながら学んでいました。昼食は子供が自分で器に盛り、後片付けもしていました。小さいうちから自主性、自立性、責任感を身に付けている子供たちの姿は、日本の教育制度のすばらしさを示していました。

そして、公式、非公式を含めた全プログラム中、最高だったのがホームステイでした。このプログラムは平和と調和と友情を促進することを主な目的としていますが、心とわが家と両腕を開いて私たちを迎え入れてくださった香川のすばらしい人々の中に、その目的が凝縮されていました。ホストファミリーは、私たちにとって友人以上、家族のような存在でした。空港では、私たちの生涯の家族となった日本の皆さんや子供たちと涙の別れを惜しまました。

私にとって香川はもはや単にうどんで有名な県ではなく、日本のおもてなしの心が本当に表現された場所、技術革新の場所、知的な子供を生み出す教育の象徴、本当の友人ができる場所になりました。

